

租税法研究Ⅳ

選択 2単位

西 聡

1. 授業の概要(ねらい)

租税は公共サービスの財源であるとともに、所得格差の是正、経済政策手段としての機能を有しています。学生の皆さんにとっては、消費税の負担に加え、いずれ所得税の納税者となり、また、起業、会社等に就職すれば、法人税ともかかわりを持つことになります。このように、税は国民の活動、生活に深くかかわっています。しかしながら、税を負担しながら、税の仕組みについて理解している方は多くありません。税法は専門的で技術的な規定が多く、毎年、改正されるため、難しいと感じることが原因の一つかと考えます。

税の細かい知識は必要はありません。必要に応じて、HPなどで確認すればよいと考えます。この授業では、我が国の主要な税目について、仕組み・概要を理解するとともに、制度趣旨・背景についても考えます。

2. 授業の到達目標

- ①法人税の仕組みを理解する。
- ②法人税に関する問題点についての探求力・分析力を修得する。

3. 成績評価の方法および基準

授業への参加姿勢(70%)及びレポート(30%)で評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

ケースブック租税法(第5版) 弘文堂

参考文献

租税法判例百選(第6版) 有斐閣

金子宏 租税法

弘文堂

5. 準備学修の内容

毎回の授業の該当部分について参考書を読んでおくこと。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

- 【第1回】 収入金額と必要経費
- 【第2回】 所得税額の計算
- 【第3回】 法人税の納税義務者
- 【第4回】 法人所得の意義
- 【第5回】 益金の意義
- 【第6回】 損金の意義・売上原価
- 【第7回】 減価償却・貸倒損失
- 【第8回】 役員給与・寄附金
- 【第9回】 交際費等・繰越欠損金
- 【第10回】 同族会社の特例
- 【第11回】 相続税
- 【第12回】 贈与税
- 【第13回】 財産評価
- 【第14回】 国際課税原則
- 【第15回】 税源浸食と利益移転